

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.15 2007年7月31日号

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

ニュース

サイドフィード、PCや携帯電話から参加できる、社内向けのメッセンジャー型 Web 会議システム



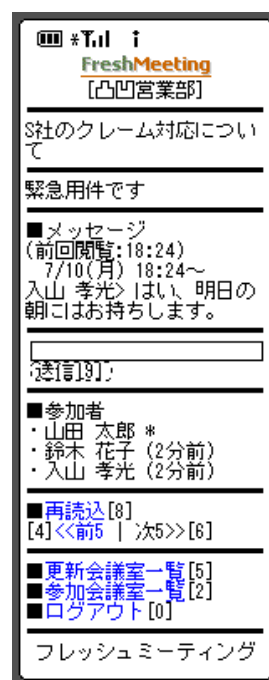
フレッシュミーティング

サイドフィード株式会社(東京都千代田区)は、PCのブラウザや携帯画面からテキストチャットで参加できるメッセンジャー型 Web 会議システム「FreshMeeting(フレッシュミーティング)」を昨年7月から国内販売している。既に大手出版社や法律事務所、IT関連ベンダー、大手メーカーなどで導入され社内ミーティングや外部の取引先などとのコミュニケーションツールとして活用されているという。

FreshMeeting は、サーバーインストール型のシステムで、ソフトウェアを社内ネットワークにあるサーバや PC に FreshMeeting をインストールするだけですぐに運用を開始することができる。クライアント側は、特別なソフトウェアは必要とせず、ブラウザで FreshMeeting サーバにログインすることで会議を開始することができる。

会議室は議題毎に会議室を作ることができ、打ち合わせ

したいメンバーをメールで招集すると、その会議室はPCや携帯電話のブラウザからアクセスしてきたメンバーで共有される。会議室ではメンバーがテキストチャットでお互い意見交換を行ったり、ファイルや URL を共有したりすることもできる。会議室はその会議室を作った人とその招集されたメンバーだけの非公開となっているので、他の人には会議室でのやりとりは閲覧ができない。



写真左：携帯電話向けフレッシュミーティング PC、携帯混在チャット会議が可能

会議室のやりとりは議事録に記録ができ、後でテキストファイルに出力も可能。さらに、議事録内の過去のやりとりも探せる検索機能も持っている。

「フレッシュミーティングは、テキストを入力するチャット形式で会議を行うもので、映像や音声で会議を行うシステムとは違うが、その分そういったシステムの10分の1程度の低コスト簡単インストールですぐに運用が開始できる。社内のグループ間だけで利用できるため、フリーのメッセンジャーのように情報が外に漏れる心配がない。また、PCだけではなく携帯からも入れるため、緊急時の対応や社内打ち合わせの効率化にも役に立つと思っている。」(サイドフィード 代表取締役 赤松 洋介氏)

会議はリアルタイムで行われるとは限らない。その場合は、ブラウザを立ち上げていなくても、メンバーの会議室での発言があれば、自動で通知する発言通知機能も

提供している。そうすると、いつもログインしておく必要もなく、他のメンバーの発言のある時だけにログインをして会議室に入室するということができる。



会議室内のメッセージ検索機能

フレッシュミーティングの管理者機能については、ユーザの設定、管理者パスワードの設定変更、ユーザデータをCSV ファイルで読み書き、ログイン方法の変更、会社名・グループ名変更、システム実行環境の確認、システムパフォーマンスの設定などがある。

対応しているサーバ OS は、Microsoft Windows、Linux、FreeBSD (バージョン等詳細は確認要)。クライアントは、Microsoft Windows と Mac OS に対応している。

法人ライセンスは、10 ユーザ版 (79,800 円、税抜き、以下同)、50 ユーザ版 (198,000 円)、100 ユーザ版 (380,000 円)、無制限版 (880,000 円) とある。

サイドフィード株式会社は、MyRSS.jp 管理人の赤松氏が 2005 年 8 月に設立した会社。読者がどんなブログを読んでいるのか知ることができるサービス「あわせて読みたい」、楽天ウェブサービスを利用したコンテンツマッチ型広告「楽ワード」、ブックマークサービス「あとで読む」、キーワードが含まれたブログやニュースの新作記事をお知らせする「freshfeed」なども提供している。

メディアプラス、Codian 製品セミナー実施、HDテレビ会議、IP/IP ゲートウェー、運用管理システムなど日本で初めて紹介、GoogleTalk 対応予定も。

メディアプラス(東京都千代田区)は、昨年8月に引き続き第二回目の Codian 技術セミナーを7月13日に都内で開催した。Codian(コーディアン)社は、MCU やゲートウェー、ストリーミングなどインフラ製品を開発する英メーカー。メディアプラスは、その Codian 社製品の正規輸入販売店。

今回のセミナーでは、Codian 社全製品の概要の紹介とともに、ポイントとしては、複数メーカー混在のHD多地点テレビ会議が可能な「MCU 4500」、新たに発売された IP/IP ゲートウェーである「IP GW 3500」、そして多地点カンファレンスなどの予約や運用管理を行うソフトウェア「CMP」、MCU4500 のSD解像度補正技術「ClearVision™(クリアビジョン)」など日本で初めて公開された。



「MCU 4200」は、多地点接続装置で Codian の主力製品。現行のバージョンは、2.1 だが、3ヶ月か半年毎にソフトウェアのバージョンアップを行っているという。「顧客のニーズを積極的に取り込んでいきたいと考えている。当社の MCU は、テレビ会議端末メーカーを選ばないシステム。主要な異メーカーの端末製品が提供する性能や機能は全てサポートしている。他社にはできないことだ。」(Codian プロダクトマネージャ Jason Creswell 氏)

「IP VCR 2200」は、テレビ会議セッションをライブストリーミングとビデオオンデマンド収録ができるシステム。再生はテレビ会議端末あるいはPCで行える。テレビ会議端末ではリモコン操作で IP VCR 2200 に接続、そうするとオートアテンダント機能でメニュー項目が画面に表示されるため、項目をリモコンで選択することで映像を視聴できる。必要に応じて特定の映像をパスワードでプロテクトも出来る。ハードディスクを内蔵しているがネットワークを通してリモートのハードディスクへの保存も可能だ。今後HDやIPv6に対応する予定。

「ISDN GW 3200」は、ISDN と IP との回線交換を行う装置。ISDN のテレビ会議システムと IP のテレビ会議システムがこの装置を通してお互いに通信が行える。ISDN 回線を複数束ねて 6Mbps まで対応し、電話などの音声端末も ISDN 回線側からコールすることでIP側のテレビ会議とも通話が行える。今後、IPv6 にも対応する考え。

「MSE 8000」は、システムの信頼性や冗長性を高めシャーシ型の大型装置。MSE 8000 では、MCU やストリーミング、ゲートウェーなどの機能を搭載したブレード(ユニット)をシャーシに差し込むことでそれらの機能を提供する。電源やファンの2重化を行い、ブレードはホットスワップ(電源 ON 時でも取り替えができること)に対応、バックアップへの切り替えも自動化している。「ブレードで提供する機能は既存の Codian 製品が提供するものと同じものだが、MSE 8000 は、より高信頼性を高め通信事業者がサービスとして使うことにも耐えるシステムだ。他の製品と同様、IPv6 や HD 対応のブレードに今後発売予定だ。」(メディアプラス)最初の導入ユーザは日本企業で既に数件設置も進んでいるという。

「MCU 4500」は、Codian 社の HD 対応の多地点接続装置(MCU)。「HD のテレビ会議端末は、ポリコム、タンバーク、ソニー、ライフサイズなどから提供されているが、それらを全て多地点で接続できる MCU は当社の MCU 4500 でしかない。MCU 4200 が持っている性能や機能は MCU 4500 でも提供されている。また、MCU 4500 は、ポートあたり 8Mbps まで対応し、そのポート能力は MCU 4200 に比べ 10 倍以上ある。今後は、720p での 60 フレーム/秒や 1080i での 30 フレ

ーム/秒も対応予定だ。」(Codian 香港テクニカルマネージャ Aaron Chin 氏)

「CMP(Codian Management Platform、コーディアン・マネージメント・プラットフォーム)」は、多地点会議を予約・管理するための「Codian Scheduler(コーディアン・スケジューラー)」と、複数の MCU や多数の会議セッションを同時にリアルタイムに管理する「Codian Director(コーディアン・ディレクター)」の2つのシステムから構成されており、Scheduler は必要に応じて個別にも導入ができるシステム。Microsoft Outlook、LotusNotes、GroupWise などに対応している。また、各端末、帯域に最適の MCU をそのつど選択させるエンドポイント・ボウティング(Endpoint Voting)という機能もある。

CMP は基本的にはシステム管理者が使用運用することを想定して開発されたシステムであるため、メディアプラスでは、多地点の会議をエンドユーザが簡単な PC 操作でその場で即座に開始できるシステムも組合せて提供。ユーザは会議を行う参加者を PC 画面でクリック選択し、会議開始ボタンをクリックすると自動で参加者端末をコール会議へ接続させる仕組み。



HD テレビ会議端末 + SD テレビ会議端末混在多地点接続

「Codian ClearVision™(コーディアン・クリアビジョン)」は、MCU 4500 で提供されている解像度補正技術。

ClearVision™はベース解像度の最大4倍の解像度へ上方変換する。CIFの解像度は、その4倍の解像度である4CIFへ変換する。MCU4500で提供される機能。

通常MCU4500で、HDのテレビ会議端末とSDのテレビ会議端末混在で多地点を行うと、多画面分割表示(前ページ写真)において、HD(9CIF相当)解像度の画質とSD(CIFや4CIF)解像度の画質のそれぞれの映像が混在表示される。その際にそのHDとSDお互いの画質の落差が目につく。なぜなら、HDの映像はシャープさをもって細部まではっきり見える映像を表示するが、CIFは映像のシャープさが乏しくHDほど細部が見えないというところがあり、そういった2つの画質の違ったものが同じ画面で隣接して表示されるからだ。そういった状況で、ClearVision™の設定を有効にすると、HDとSD端末の映像の質の見た目の落差感を軽減する効果を持つ。

「IP GW 3500」は、H.323とSIPに対応したIP/IP間ゲートウェイシステム。H.323とSIPのプロトコル変換、映像音声のコーデック変換、企業ネットワークと公衆インターネット間の変換などを行う装置。「IPテレビ会議を導入する上でファイアウォールはひとつの大きな問題。各メーカーからファイアウォールトラバースソリューションが出ているが、当社製品は、ファイアウォールに全くタッチしないところに特長がある。MSE 8000用のブレードでも対応予定だ。」(同 Jason Creswell氏)



IP GW 3500は、2007年第三四半期には、HDやH.239(デュアルビデオ)に、年末には、チェアコントロール

(H.460)とGoogleTalkもサポートを考えているという。

Codian製品には、内蔵ゲートキーパーが装備されているが、ゲートキーパー機能をスタンドアロンの一装置として提供することも検討しているという。「スタンドアロンのゲートキーパー装置は、現在検討しており、リリースの場合は2008年の後半を考えてはいるが、現在でも内蔵のゲートキーパーだけではなく、既存のゲートキーパーを使用するか、内蔵ゲートキーパーのネイバー機能を使えば隣接するゲートキーパー間でテーブル情報の交換を行い効率的な活用は行える。」(同 Aaron Chin氏)

今回のセミナーでは、2時間という短時間ながら、新しい製品の発表やデモ、そして今後のリリース予定などが紹介された。やはり、相互接続性、HD、IPv6への対応などが今後の製品リリースの主要なポイントになっている。「テレビ会議専用のインフラ製品を提供することで事業を展開する当社だが、端末の互換性を重視すること、顧客の要望やニーズは積極的に取り入れていくことを製品開発の支柱に据えている。」(同 Jason Creswell氏)

メディアプラス 代表取締役 尾崎修司氏は、「Codianは、2002年に設立されて以来今までの展開は目を見張るものがある。各メーカー間との端末の互換性を積極的に行い、先進的な技術を他社に先駆け採用していく意欲は圧倒される。その上、ユーザからのフィードバックには積極的に、将来の技術展望を見据えた製品開発を行っているため、テレビ会議、ひいてはビジュアルコミュニケーションの進化の方向性が垣間見える製品と言える。Codianというメーカーが先導となってマーケットを変えていく予感を感じている。」と今後もCodianの販売に力を入れたい考えだ。

NTT 東日本、インターネット、メール、IP テレビ電話ができるインターネット端末を発売、フレッツフォンシリーズでは最大の12.1インチのタッチスクリーンを搭載

東日本電信電話株式会社(東京都新宿区、以下 NTT

東日本)は、パソコン不要でインターネットやメール、テレビ電話ができるインターネット端末「フレッツフォン VP2000」を7月10日から販売を開始した。

フレッツフォンシリーズは、VP 1000(2004年9月)、VP 1500(2006年4月)、VP100(2007年3月)と発売してきた。このVP2000は、シリーズ最大の12.1インチのタッチパネル画面(XGA 1,024x768、1677万画素)を搭載し、マイク、スピーカーを内蔵しハンズフリー通話が可能。カメラは、CMOS 30万画素を装備する。



フレッツフォン VP 2000

IP テレビ電話機能については、SIP プロトコル、IPv4/IPv6、UPnP(NAT トラバース機能)、PPPoE に対応している。映像帯域は、128kbps から 2Mbps までサポート。映像は、MPEG-4、音声は G.711。

VP 2000 は、着信自動応答機能を搭載しているが、事前に登録した任意の電話番号からの着信に対し、テレビ電話として自動で応答する機能。外出先などから NTT ドコモの FOMA 携帯テレビ電話やフレッツフォンシリーズ端末から、自宅にある VP2000 へ接続し、その内蔵カメラを通して留守宅等の様子を見たりすることができる。

入出力インターフェイスについては、イーサネットポート(10/100Mbps)以外に、USB(2.0)の端子、映像音声の入出力の端子、ハンドセット用の接続端子などを持つ。

VP 2000 は、パソコン不要の簡易端末として、生活に密着

したニュースや天気、地図情報等のホームページが15ジャンル事前設定されており、その中から最大9ジャンルのサイトを選択し画面のワンタッチボタンへ登録することで、ワンタッチで欲しい情報を簡単に入手できる。メール作成は、タッチパネルを利用して行える。

NTT 東日本が提供する、IPv6 対応の「FLET'S.Net ナンバー」のテレビ電話機能に対応しており、契約者同士、月額固定料金でテレビ電話サービスが利用できる。また、「ひかり電話」サービスを利用すれば NTT ドコモの3G携帯テレビ電話サービス「FOMA(フォーマ)」とも通信が可能。さらに、対応プロバイダの IP 電話サービスにも対応している。7月9日現在対応プロバイダは、「@ニフティ」、「ASAHI ネット」、「BIGLOBE」、「plala」、「WAKWAK」となっている。

価格は、1台 64,800 円(税抜き、以下同)。満 60 歳以上(申込時)が購入の場合や B フレッツ(もしくはフレッツ ADSL)新規申込から開通後1ヶ月以内の購入の場合は、59,800 円で提供、また上記2条件を満たす場合は、54,800 円とさらに割引く。

NTT 東日本は、NTT 東日本エリアで年間 1 万台の販売を見込む。

関連記事:(VP 1000 Vol.8 No.11 2006年4月20日号、VP 1500 Vol.8 No.11 2006年4月20日号、VP 100 Vol.8 No.11 2007年3月31日号)

ブイキューブ、企業向けフラッシュ動画配信サービスをリリース

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、ウェブサイト、携帯電話向け動画自動変換及びフラッシュでの配信が可能な ASP サービス「nice to meet you ビデオ」の販売を開始した。

「nice to meet you ビデオ」では、デジカメ、携帯電話、WebCam で撮影した動画を管理画面から自動的に flv、3gpp、mov の動画ファイルに変換し、配信に必要な設定を行うことができる。

また、企業向けサービスとして、検閲機能、再生ログ機能や、他のシステムとの連携を可能とする API (Application Program Interface) なども提供する。

API 連携によって、物件紹介、EC、オークション、SNS、ロコシステムとの連携を行えるとともに、既存で運用している各種サービスに動画の自動変換とフラッシュでの動画配信機能を追加することができる。

オプションとしては、Flash Media Server と組み合わせてのストリーミング配信も可能。

入力対応ファイル形式は avi/mov/mpeg1/mpeg4/wmv/3gp/3gp2。利用料金は、初期費用 47,500 円 (税込み、以下同)、月額 31,500 円から利用可能。

nice to meet you は、同社が提供するビジュアルコミュニケーションサービスの統合ブランド。今回発表になった新たなサービス以外には、ウェブテレビ会議システム「nice to meet you ミーティング」、ウェブセミナーシステム「nice to meet you セミナー」などがある。

C I A J セミナーレポート：日本大学児玉教授

日本大学商学部大学院商学研究科の児玉充教授は、7月20日都内情報通信ネットワーク産業協会主催のセミナー「ネット・コラボレーション組織～映像コミュニケーション&コラボレーションによる革新～」と題して、テレビ会議、Web 会議などのビジュアルコミュニケーションやユニファイド・コミュニケーションの動向とトレンド、海外での活用事例、IT 導入と経営への影響などについて講演した。

児玉教授は、現在日本大学で教鞭を執っているが、以前90年代からフェニックスなどのテレビ会議システムの立ち上げ、NTT フェニックス通信網 (現NTTビズリンク) の事業化、その後NTTドコモに転じてテレビ電話やVライブなどの企画を行ってきた。映像通信との関わりは15年になるという。現在は、その経験を生かし、映像コミュニケーション&コラボレーションが経営の効率化や生産性の向上さらには人間の創造性にどう影響を与えるかなどの研究を行っている。たとえば、経営的な視点から映像コミュニケーションの企業導入の

効果について、アジア欧米企業へのアンケートやヒアリング調査を行っている。その分野では日本では第一人者と目される。



CIAJ セミナーで講演する日本大学児玉教授

セミナーで児玉教授は、「映像コミュニケーション&コラボレーションは、“映像文化”という新しいカルチャーを創造する可能性を秘めている。ブロードバンドの普及などを背景に、映像コミュニケーション&コラボレーションは、企業活動や社会生活における“知の創造”のための重要なプラットフォームとなりうる。」と述べ、今後の映像コミュニケーション&コラボレーションがますます企業や消費者に普及していくと展望する。

海外の事例では、フランスにおける、IP 電話や携帯テレビ電話、VoIP 電話、IP モニタリングなどを組み合わせたサービス展開やイタリアによる統合 IP サービス、シンガポールでのマンション向けの映像ソリューションなどを紹介。「海外での映像コミュニケーション&コラボレーションの取り組みは非常に活発だ。」(児玉教授)

最近の市場のトレンドとしては、テレビ会議の HD 化と、テレプレゼンス、映像コミュニケーションと IP テレフォニーの融合による、ユニファイド・コミュニケーションが、市場では注目を浴びているという。「コミュニケーションシステムが統合されることは便利なことで、方向性はユニファイド・コミュニケーションであることは間違いない。ただ、後はカルチャーの問題をどうクリアするかだと思う。」(児玉教授)

児玉教授は長年の映像コミュニケーション&コラボレーションの研究の一環としてテレビ会議ユーザ企業などへのアンケート・ヒアリング調査も行いその数はアジア欧米各社で300社を越える。結果としては、情報の共有と活用、意志決定の迅速化、業務プロセスの効率化、生産性の向上、開発効率の精度向上と効率化を目的とした導入を行った企業がほとんどで導入後も、経費削減を含め意志決定の迅速化や組織内のコミュニケーションの活性化の面での効果のみならず、顧客サービスやアフターサービスの向上にもテレビ会議は一役買っているという。

「調査結果をみて、特に欧米の企業に特徴的なことは、ただテレビ会議を社内に入れるだけではなく、組織構造や業務プロセス、そして意志決定のプロセスも合わせて見直しを行っているところだ。」(児玉教授)

そして、児玉教授は、IT 導入と生産性の相関関係をプロットした欧米の調査グラフを引用しながら、「グラフを見ると、IT ツールを入れたからといって必ずしも生産性の向上を全ての企業が達成するとは限らないということがわかる。つまり、IT ツールを導入するとともに、組織や業務などの見直し改善も合わせて行うことがより効果を出すために重要だ。それはテレビ会議にも言えることだと思う。欧米企業はその点を理解している企業が多いようだ。」(児玉教授)IT の導入と社内の見直しは車の両輪として捉えるのが重要だと説明。

今後の映像コミュニケーション&コラボレーションは、企業のグローバル化、分散型プロジェクトの展開、人材育成の必要性、テレワークの導入、テロ・災害などの非常時対策などの企業側の要因と、もう一方では、ブロードバンド化、テレビ会議システムの高画質化や高機能化(HDやテレプレゼンス)、3G や 3.5G、WiMax などのワイヤレス環境やコミュニケーションツールの統合(ユニファイド・コミュニケーション)といった技術進化の要因が、後押しをすると児玉教授は見る。「ビジネス企業向けの映像コミュニケーション&コラボレーションは今後も順調に増えていくのではないかと。ただ、コンシューマー向けの普及は時間がかかる可能性があるが、たとえば携帯テレビ電話の利用は増えていると聞いている。コンシ

ューマーでの普及もそう遠くない将来に実現するのではないかと期待している。」

日本大学商学部大学院商学研究科 児玉 充 教授
(kodama.mitsuru@nihon-u.ac.jp)

CIAJ 次世代映像コミュニケーション有望用途調査研究会 WG



月1回開催されるWG

顧問: 日本大学商学部大学院商学研究科 児玉 充教授
事務局: 株式会社シードプランニング 第2グループ 主任研究員 原 健二氏 (hara@seedplanning.co.jp)

ブロードバンドの普及で従来のテレビ会議以外にも、パソコンと Web カメラで簡単にミーティングができる Web 会議が普及拡大している。また映像コミュニケーションの端末として携帯電話や、無料でビデオチャットができる IP 電話も出てきました。

本調査研究は、これらの映像コミュニケーションの新しいトレンドや今後の Web でのビデオチャットの有望用途を調査研究することを目的としています。WG は毎月開催。

- ・映像コミュニケーションの有望事例把握
- ・映像コミュニケーションの阻害要因と普及要因調査
- ・Web や携帯電話での映像コミュニケーションニーズ把握
- ・次世代映像コミュニケーションの将来調査

現在 WG への参加企業を募集しています。詳細は、上記事務局までお願い致します。

ヴォルフビジョン、スタンドアロンタイプのカメラ EYE シリーズ最上位機種を発表、HD映像出力対応



EYE-12

株式会社ヴォルフビジョン(東京都新宿区)は、プログレッシブスキャン方式高解像度ライブカメラ EYE シリーズ「EYE-12」を発表、8月から発売する予定。EYE シリーズには、現在「EYE-10」が販売されているが、EYE-12 は最上位モデルとして発売される。

「EYEシリーズのカメラは、当社が長年にわたり開発、製造してきたビジュアライザー用カメラの技術を生かして作られた。2004年より、スタンドアロンカメラを販売してきたが、WolfVision ビジュアライザーのために開発されたカメラ、レンズ、ファームウェア等の技術的な改良点はすべてEYEシリーズのカメラに搭載されている。例えば、sRGB カラープレジジョン(色精度)、ワイドスクリーンサポート、ネットワーク/LAN機能のなどだ。」(ヴォルフビジョン)

主な特長としては、132万画素対応 SXGA プログレッシブスキャンカメラを搭載し、12倍光学ズーム、4倍デジタルズームに対応。ネイティブ出力は、SXGA-(1280x960)、HD(ハイデフィニション)720p(1280x720)。USB 2.0、RS232、DVI 出力、HDMI(DVI-HDMI 交換ケーブル使用)、イーサネット/LANポート10/100Mbps(PoE、パワーオーバーイーサネット、LANを通して電力供給を行う方法)などがある。ファームウェアアップグレードはLAN経由で行える。

EYE シリーズは、天井に取り付けて、照明システムの組み込まれていないシーリングビジュアライザーとしても使え、さらに、三脚や壁に設置すれば、ビデオカメラや監視カメラとしても使える。保証期間は3年。定価55万円(税抜き)。

セミナー・展示会情報

Web 会議はオフィスで本当に役に立つ!? 賢い企業はこう使う!!

日時:8月2日(木) 15:00-17:00

場所:キャンソフト情報システム 東京支社

主催:キャンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:

<http://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=966>

企業における Web 会議システムの可能性と実際 ~ 導入を検討すべきかどうかの "考えるヒント" とは ~

日時:8月7日(火) 14:00~15:00

会場:インターネット上の会場(オンライン)

主催:ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_0807.html?SourceId=cna

「Web 会議を活かし切る」セミナー

~ Web 会議はこうして使う! 700 企業の実績から ~

日時:8月23日(木) 13:30-17:00 (受付開始:13:00)

会場:NEC ブロードバンドソリューションセンター ホール(品川イーストワンタワー 7F)

主催:NEC UNIVERGE パートナーセミナー事務局

協賛:エイネット株式会社

詳細・申込:

<http://www.nec.co.jp/univerge/seminar/partner0823/index.html>

編集後記

CNAレポート・ジャパンへ、日々ご協力、ご支援誠に有り難うございます。

8月7日のウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン主催のオンラインによるセミナーと、8月23日 NEC UNIVERGE パートナーセミナー事務局主催、エイネット協賛のセミナーに、それぞれ講演させて頂くことになりました。宜しければご参加いただければ幸いです。

この定期レポートは、夏期スケジュールとして8月15日号と8月31日号は、お休みをさせて頂く予定ですが、ニュースの状況により、8月31日号を発行する場合があります。今号もご覧頂きまして有り難うございました。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本啓介